第四講『庸盦筆記』／「諸子百家・四書五経」

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ

寧波、水国也。然甬江与海潮相呑吐、其水皆鹹。故ⓐ凡取淡水者、必遡鄞江。其源ⓑ乃清。居民則戸列巨甕、積受雨水而用之。余任寧紹台道五年、署中用水、①皆以船載之十里之外。府県署中亦然。丙戌之夏、②雷声殷殷、忽ⓒ将道署厨房外一水甕撃砕。其甕容水十余石、迸流満地。甕外有八九尺之蛇蛻一条。余乃悟曰、「是甕之水、道署之人、飲食皆取給焉。蛇浴於甕、行至甕外而脱殻。其水必毒、可以殺人。③故驟撃之、天之愛人甚矣。淡水ⓓ固養人之物。蛇初入浴、人ⓔ尚未知。④而蒼蒼者早已知之、奮雷一撃、⑤使道署之人免遭其害。於乎、⑥何其仁与明之無不周也。」

（清・薛福成『庸盦筆記』による）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（備考）この文には、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

（注）寧波――地名。現在の浙江省にある。
甬江――寧波にある川の名。
呑吐――のんだり吐いたりする。川の水と海の水が混ざることをいう。
鄞江――甬江の上流にあたる支流の名。
寧紹台道――清朝の行政区画で、寧波・紹興・台州の三府をまとめて一道とした。
署中――役所の中。
丙戌之夏――一八八六年の夏。
殷殷――雷のとどろくさま。
十余石――石は容量の単位で、一升の百倍。
迸流――勢いよく流れ出る。
一条――条は細長いものを数える単位。
周――あまねし。広くゆきわたる。

問一　傍線部①「皆以船載之十里之外。」について、

（１）書き下し文に改めよ。

（２）わかりやすく解釈せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部②「雷声殷殷」とあるが、そのあとどのような状況になったか、具体的に説明せよ。

問三　傍線部③「故騶撃之、天之愛人甚矣。」を、わかりやすく解釈せよ。

問四　傍線部④「蒼蒼者」とは何を指すか、文中の語を用いて記せ。

問五　傍線部⑤「使道署之人免遭其害。」を、書き下し文に改めよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　傍線部⑥「何其仁与明之無不周也。」について、筆者がこのように考えた理由を、本文の内容に即して百字以内で述べよ。

問七　波線部ⓐ「凡」、ⓑ「乃」、ⓒ「将」、ⓓ「固」、ⓔ「尚」の読み方を、送り仮名も含めて、すべて平仮名で記せ（現代仮名遣いでもよい）。

ⓐ＝　　ⓑ＝　　ⓒ＝

ⓓ＝　　ⓔ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　次の文章の空欄（　Ａ　）～（　Ｄ　）に最もふさわしいものを後の（ア）～（コ）から選べ。

仁は儒教の祖と称される孔子が説いた重要な徳目である。その思想を展開させた（　Ａ　）時代の孟子は、仁とともに（　Ｂ　）をあわせて主張し、政治の根本とした。儒教は以後の中国の政治・社会・文化に大きな影響を与えた。その主要な経典は五経と呼ばれ、（　Ｃ　）や（　Ｄ　）などがある。

（ア）戦国　（イ）前漢　（ウ）三国　（エ）論語　（オ）詩経
（カ）大学　（キ）礼記　（ク）忠　（ケ）義　（コ）孝

Ａ＝　　Ｂ＝　　Ｃ＝　　Ｄ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈講義動画中に使用します〉

「相(あヒ)V(スル)」

❶「　　　Vする」（みなVする）

（例）聞(キ)二里人(ノ)相慶(ベルヲ)一、…

〔里人(りじん)の相慶(よろこ)べるを聞き、…〕

（郷里の人々がみな喜んでいたと聞き、…）

❷（相手に・相手を）「　　　　」

＊「相」はただの添え字

（例）明月来(リテ)　相(ヒ)照(ラス)。

〔明月来りて相ひ照らす。〕

（明月が空に昇って（私を）照らしてくれる。）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

再読文字以外の用法の「将」

【副詞】「はタ」…いったいどうして〜であろうか・まさか〜ではあるまい　〈反語を強める働き〉

【接続詞】「はタ」…❶A（乎）、将B（乎）。　〔Aか、はたBか。〕　〔Aか、それともBか。〕　〈選択の働き〉

❷将A将B。　〔はたAはたB。〕　〔かつA、かつB。〕　〈同時存在の働き〉

「と」…〜と。　〈並列の働き　＊「与」と同じ〉

（例）伴（ヒテ）二月（ト）将（とヲ）レ影…　〔月と影とを伴ひて…〕　〔月と影とをつれて…〕

【前置詞】「もっテ」…❶〜によって　〈手段を示す働き〉

❷〜を　〈動作の対象〉

【動詞】「ひきヰル」…導く・統率する

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「諸子百家」…春秋・戦国時代に、学派を形成して、各国の諸侯に政策を進言する思想家や学派のこと。

●**儒家**…「　　　」が祖で、「　　　」を最も重要と考える。「**修己治人**（しゅうこちじん）（＝まずは己を修めて、その後に人を治める）」が使命。「　　　」や「　　　」に受け継がれ、思想が展開されていく。

●**道家**…「　　　」が祖で、「　　　」（＝「人為」である知識や道徳などを排除して、自然の本性に従うべき）を主張し、儒家と対立。「　　　」などに受け継がれる。「　　　思想」ともいう。

●**法家**…管仲（かんちゅう）が祖で、法律や刑罰を重んじる思想。集大成したのが「　　　」で、「**信賞必罰**（＝賞すべき者には必ず賞を与え、罰すべき者には必ず罰を与えるべき）」を唱える。

●**墨家**（ぼっか）…墨子（ぼくし）が祖で、「**兼愛**（＝博愛主義）」、「**非攻**（＝戦争否定）」、「**節用**（＝過度の音楽や葬儀などの無駄を省くこと）」を説く。

●陰陽家…世の中のあらゆる現象を、「陰」と「陽」にわける「陰陽五行説」で説明する。鄒衍（すうえん）（「騶衍（すうえん）」とも）が代表的。

●名家…「名（＝言葉）」と「実（＝実体）」の分析を行う。詭弁（きべん）派とも言われる。公孫竜（こうそんりゅう）・恵施（けいし）が代表的。

●**縦横家**（じゅうおうか）…「　　　」が**合従策**（がっしょうさく）（＝秦以外の国で連合）、「　　　」が**連衡策**（れんこうさく）（秦とそれ以外の国を連盟）を唱える。

●雑家…様々な思想を取捨選択して総合。呂不韋（りょふい）が代表的。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●農家…農業中心の政治論。許行（きょこう）が代表的。

●小説家…民間のうわさや出来事を収集。詳細不明。

●**兵家**…兵法・軍事に関する思想。兵家の書である『　　　　』が有名。

「四書五経」

●「五経」＝『**詩経**』、『**書経**』、『**易経**（えききょう）』、『**礼記**（らいき）』、『**春秋**』。
儒教の経典。

●「四書」＝『**論語**』、『**大学**』、『**中庸**（ちゅうよう）』、『**孟子**』。
宋の時代の程（てい）兄弟が、五経に先だって読むべき儒学の教科書として挙げた四つの書。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講

①「凡吏タル二於土ニ一者、…。」の傍線部の読みを、送り仮名も含めて平仮名で記せ。

②「民知リ二其ノ異ナルヲ一、乃許スレ之ヲ。」の傍線部の読みを、送り仮名も含めて平仮名で書け（現代仮名遣いでよい）。

③「学ブ者語リテ二其ノ大ヲ一、而忽ゆるがセニスルハ二其ノ小ヲ一、固不可也。」の傍線部を送り仮名も含めて平仮名で訓読せよ。

④「使画工図其形。」に、返り点を付けよ（送り仮名は付けないこと）。

使　画　工　図　其　形　。

⑤「門外車轍、何其深也。」の傍線部を現代語訳せよ。

⑥『淮南子』は、思想的には老子と同じ諸子百家の流派の一つに属するとされる。その流派は何か、次の中から一つ選べ。

ア　儒家　イ　道家　ウ　法家　エ　墨家　オ　縦横家　カ　陰陽家

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第四講】

〔模範解答〕

一

問一　（１）　皆船を以て之を十里の外より〔に〕載す。

（２）　全部、船で十里離れた所から役所で使う水を運んできた。

問二　役所の厨房の外にあった一つの水甕を雷が打ち砕き、溜めていた水が流れ出し、甕の外に蛇の抜け殻を見つけた。

問三　だから天が雷で突然蛇の毒が入った水甕を打ち砕いたのは、天が人をとてつもなく愛しているからである。

問四　天

問五　道署の人をして其の害に遭ふを免れしむ。

問六　役所の人々が、飲水用の水甕に蛇が入っていて毒があることに気づいていなかったが、天がそれを悟り、人間を救うために雷で水甕を打ち砕いたことは、天の深い思いやりと鋭い推察力のおかげだと考えたから。（九十五字）

問七　ⓐ＝およそ　ⓑ＝すなわ〔は〕ち　ⓒ＝もっ〔つ〕て　ⓓ＝もとより　ⓔ＝なお〔ほ〕

問八　A＝（ア）　B＝（ケ）　C＝（オ）　D＝（キ）

〔現代語訳〕

一

寧波は、水の（豊かな）国である。しかし甬江の水と海水が混ざりあっており、その（土地の）水はすべて塩辛い。だからすべて淡水を求める者は、（甬江の上流の）鄞江に遡らなければいけない。その源流はやっと清らかである。（寧波の）住民は家ごとに巨大な甕を並べて、雨水を溜めてこれを使用している。私は寧紹台道に赴任して五年、役所で使用する水は、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

すべて船で十里離れた所から運んでくる。府や県の役所もまたそのようであった。
丙戌の夏、雷がとどろき、突然役所の厨房の外の一つの水甕を直撃して砕いた。その水甕は水の容量が十余石あったので、勢いよく流れて地面が水浸しになった。（打ち砕かれた）甕の外に八、九尺の蛇の抜け殻が一つあった。
私はそこで悟って言うには、「この甕の水は、役所の人々が、飲食するときにみんなが提供されている。蛇が甕で水浴びし、甕の外に出て行き脱皮した。その水は必ず毒があり、人を殺してしまう。だから（天が雷で）突然この水甕を打ち砕いたのは、天がとてつもなく人を愛しているからである。淡水はもともと人を養うものである。蛇が最初（この水甕に）入って水浴びをしていることを、人はまだ誰も知らなかった。だが蒼蒼たる者（＝天）は早くもすでにこのことを知り、雷を起こして一撃し、役所の人々にその被害に遭うことを免れるようにしてくれた。ああ、なんとまあ天の仁愛と明察とが広く行き渡っていることだろう」と。

＊**「諸子百家」**の空欄

●儒家…**「孔子」**が祖で、**「仁」**を最も重要と考える。「修己治人（しゅうこちじん）（＝まずは己を修めて、その後に人を治める）」が使命。
「孟子」や**「荀子」**に受け継がれ、思想が展開されていく。

●道家…**「老子」**が祖で、**「無為自然」**（＝「人為」である知識や道徳などを排除して、自然の本性に従うべき）を主張し、儒家と対立。**「荘子」**などに受け継がれる。**「老荘思想」**ともいう。

●法家…管仲（かんちゅう）が祖で、法律や刑罰を重んじる思想。集大成したのが**「韓非子」**で、「信賞必罰（＝賞すべき者には必ず賞を与え、罰すべき者には必ず罰を与えるべき）」を唱える。

●縦横家（じゅうおう）…**「蘇秦」**が合従（がっしょう）策（＝秦以外の国で連合）、**「張儀」**が連衡（れんこう）策（秦とそれ以外の国を連盟）を唱える。

●兵家…兵法・軍事に関する思想。兵家の書である**『孫子』**が有名。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答解説　第四講

〔解説〕

① 「凡」は副詞で「およソ」と読む。

② 「すなはチ」と読む字として、「則・即・便・乃・輒」は押さえておくこと。

③ 「固」は副詞で「もとヨリ」と読む。

④ 「使」を使役の助動詞だと予測して、下をざっと見て動詞を探す。ここでは「図」が「図（えが）く」という動詞。よって、その間の「画工」が使役の対象で、読む場合は「～ヲシテ」の送り仮名が必要。「図」の下の「其形」が目的語。読み方は「画工をして其の形を図かしむ」。これで訳もおかしくないので、その通りに返り点を付けると、解答のようになる。

⑤ 「何其Ａ也」は、「なんゾそレＡや」と読み、「なんとＡではないか」という詠嘆形。よって「何ぞ其れ深きや」と読み、「なんと深いではないか」という意味。深いということに対する詠嘆の意が読み取れる訳であればよい。

⑥ 老子は「道家」の代表的思想家。よって、イが正解。道家の思想家には他に荘子などがいる。

〔解答〕

① およそ　② すなわち　③ もとより

④ 使㆔画工図㆓其形㆒。　⑤ なんと深いことでしょう。　⑥ イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。